

第3学年国語科学習指導案【改善版】

日時 平成25年度10月31日(木) 4校時
児童 男子9名 女子10名 計19名
指導者 玉澤初代

- 1 単元名
筆者の説明の仕方を考えて、「食べ物変身ブック」で紹介しよう
- 2 教材名
「すがたを変える大豆」 国分 牧衛
「食べ物のひみつを教えます」 (光村図書 三年下)
- 3 単元の指導目標
【国語科への関心・意欲・態度】
・すがたを変える食べ物について関心を持ち、自分が調べた食べ物について、文章構成を理解しながら分かりやすく説明しようとする。
【書く能力】
・「話題提示・事例・まとめ」の構成を意識し、「事例」の例を絵と組み合わせながら段落に分けて書くことができる。〔Bイ〕
【読む能力】
・文章全体の構成「話題提示・事例・まとめ」を把握し、説明文の中心となる語や文を捉えながら読むことができる。〔Cイ〕
【言語についての知識・理解・技能】
・接続語が文と文とのつながりに果たす役割を知り、使うことができる。〔イ(ク)〕

4 単元を貫く言語活動の特徴

本単元を貫く言語活動として、変身した複数の食べ物を分かりやすく説明する「食べ物変身ブック」を作る活動を位置づけた。読み手に分かりやすく説明するためには、変身したいいくつかの事例を何をどのような順で説明するか考える必要がある。そのため「食べ物変身ブック」を作るという目的に応じて、必然的に中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を捉えて読むことになる。そのことから事実と意見との関係を考え、文章を読む〔Cイ〕を実現するようにしている。

5 単元について

(1) 児童について

児童はこれまで、教材「イルカのねむり方」「ありの行列」の学習で、自分たちの身近にいる生き物の不思議やおもしろさについて書かれている科学読み物に触れてきた。その学習の中で、「はじめ」に筆者の問いが書かれ、それを明らかにするために実験・観察していく「仮説・検証型」の文章構成と、「中」のまとまりがいくつかの「段落」から成り立っていることを学んだ。また、実験・観察した科学読み物に関心を持ち、進んで読む児童が増えた。

本単元では、「中」の内容がいくつかの事例を紹介する「解説型」の文章構成の説明文を始めて学習する。段落相互の関わりも前回の学習と大きく異なることから、各段落の中心になる文をしっかり見極め、段落相互の関係をしっかりとらえさせたい。そして、次の学習の「かるた」では「情報解説型」の説明文で、段落ごとに書いてあることを「小見出し」を付け、とらえさせる学習へとつなげたい。

また、昨年度の標準学力検査の結果から「時間的な順序、事柄や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む問題」が全国平均を下回っていた。これは、【解釈】を問う問題であった。この単元でも以上のことと関わらせながら更なる定着を図りたい。

(2) 単元構成と指導にあたって

身近な食べ物が様々な形に加工されていることに気づかせ、「すがたをかえる食べ物」について関心を持たせたい。そして、関心を持った「すがたを変える食べ物」を食育の日に、全校の皆に知らせる。そのために、本単元では「分かりやすい説明の仕方を学ぶ」ことをねらっていく。

「食べ物変身ブック」は、「はじめ・中・おわり」の形にまとめて紹介する。「中」には、いくつかの事例を紹介するが、どのような工夫をしてどのような食品になるのかを一つずつ段落にまとめる。その事例を説明する場合、どのような順で説明すると分かりやすく伝えることができるのか考えさせたい。

本単元で扱う説明的文章の教材文「すがたをかえる大豆」は、全体が「はじめ・中・おわり」の文章構成で「中」には五つの事例が分かりやすいものから順に紹介されている。また、書くことの教材文「食べ物のひみつを教えます」は、説明する内容を整理するマップの書き方や「食べ物変身ブック」のモデルとなる「すがたをかえる米」の文例がある。この二つの教材を通して、本単元のねらいを達成することができるであろう。

第一次では、「すがたをかえる食べ物」をクイズに出し、身の回りにある「すがたをかえる食べ物」に気づかせて興味関心をもたせ、その他にもどんな食べ物があるか、調べるために並行読書へとつなげたい。そして、すがたをかえる様々な食べ物の驚きや発見を誰かに知らせたいという思いを持たせたい。食育の日に全校に知らせるといった目的で、「食べ物変身ブック」の「すがたをかえる米」のモデルを提示し、活動の見直しを持たせる。そして、児童が知らせたい「すがたをかえる食べ物」を分かりやすく説明するには、どのような工夫をすればよいかという単元の目標を設定する。

第二次では、分かりやすく説明するための必要条件を【解釈】させながら確かめていきたい。その際、【情報の取り出し】中心にならないよう、比較させたり、並べ替えたり、言葉を入れ替えたりするなどの活動を通し、考えさせたい。また、学習した事が、自分の伝えたい事例の場合ではどのように活用できるか考えさせ、常に単元のゴールと密接につなげたい。

第三次では、第二次で学習した分かりやすく説明する条件を振り返り、整理して文章にまとめる。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・すがたを変える食べ物に興味をもち、自分で調べた食べ物について分かりやすく説明しようとしている。	・「中」の部分で、事例ごとに段落を分け、その段落の順に注意するなどして説明文の文章構成を踏まえて書いている。〔Cイ〕	・「食べ物変身ブック」を書くために、説明の中心となる文や事例の順を考えて、文章を読んでいる。〔Bイ〕	・文末表現や接続語のはたらしきを理解している。 ・食べ物の調理法などで使う言葉や使い方を理解している。〔イ(ク)〕

7 単元計画 (全11時間)

次	時	主な学習活動	指導の手立て	評価	
一	1	・身近にすがたを変える食べ物に興味を持ち、すがたをかえる食べ物についての本を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・すがたを変えた食べ物、もとの食べ物は何だったかクイズ形式で紹介し、すがたを変える食べ物に興味を持たせる。 ・すがたを変える食べ物について、誰かに知らせたいという思いを持たせる。 ・モデルを提示し、書き方の大体の流れを確かめる。 ・様々な本を読めるよう、時間を十分確保する。 ・マップの書き方を確認し(調理するときの言葉を確認する)説明したい事例をマップで整理する。 ・「すがたをかえる大豆」を読み感想を持たせる。 ・書かれてある大体の内容を確認する。 	関 興味をもった食べ物について調べ、説明文を書くための見通しを立てようとしている。	
	課外	・読書タイムなどに本を読み紹介したい材料を選ぶ。			
	2 3	・「食べ物へんしんブック」を作る単元のめあてを知り、学習計画を立てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・「食べ物変身ブック」で全校のみんなに伝えるために、分かりやすい説明の仕方を考えよう。 	書 書く目的に必要な事柄をマップに整理している。
二	4	・「はじめ」「中」「おわり」の説明されていることを整理しながら、文章全体の組み立て方をとらえる。 【情報の取り出し】	並行読書	読 「話題提示」「事例」「まとめ」のまとまりを注意して読んでいる。	
	5 6	・「事例」に書かれている内容を考える。 【情報の取り出し】 【解釈】		読 「事例」の中心となる語句を見つけ整理させる。 ・「事例」に書かれている具体例が、一つの段落に一つの工夫があることに気づかせる。 ・モデルの例文と比較させながら、筆者の書き方は段落のはじめに中心文があることに気づかせる。 ・分かりやすい説明に必要な事…「事例」は、一つの段落にすがたをかえる工夫とすがたをかえた食品を書くことを確かめる。	読 「事例」に書かれてある「工夫」と「食品」の例示を整理しながら読んでいる。
	7 本時 8	・「事例」がどのような順で書かれているか、筆者の説明の工夫について考える。 【解釈】		読 接続語に着目させ、段落の順序を確かめさせたり、具体例を整理させたりする。 ・分かりやすい説明に必要な事…「事例」は、順序を考えて書く。接続語も考える。ことを確かめる。	読 読み手が分かりやすいように調理の工夫の程度など、伝えたい意図によって事例の順序が決まってくることを書きままとめている。
三	9	・分かりやすい説明に必要なこと確かめ、書くことをワークシートに整理する。 【表現】	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習した内容をたしかめ、書く計画を確かめる。 ・「話題提示」「事例」「まとめ」の大きなまとまりで書く。 ・「事例」は、一つの段落にすがたをかえる工夫とすがたをかえた食品を書く。 ・「事例」は順序を考えて書く。 ・接続語を考える。 	書 「事例」を分かりやすく伝えるために順序を考えて書いている。	
	10	・整理した事をもとに、「食べ物変身ブック」を書く。	・「中」の事例が、分かりやすく伝わる工夫がされているか確かめさせる。	書 順序よく事例をつなげるために接続語の役割を理解している。	
	11	・完成した説明文を読み合い、感想を	・友達がどんな書き方の工夫をしているの	書 文章の間違いや友	

	発表し合う。	かに着目させながら読むようにする。	達の書き方の工夫に気づいている。
12	・分かりやすく説明するためのポイントを整理し、単元の学習を繰り返す。	・ふり返りの観点を示し、観点に沿って感想を持てるようにする。	読 自分と友達の手書き方を比べ、上手に説明しているところに気づいている。

8 本時の展開 (7/12)

(1) 目標

分かりやすく説明するために、「事例」の順序を考えることができる。

(2) 展開

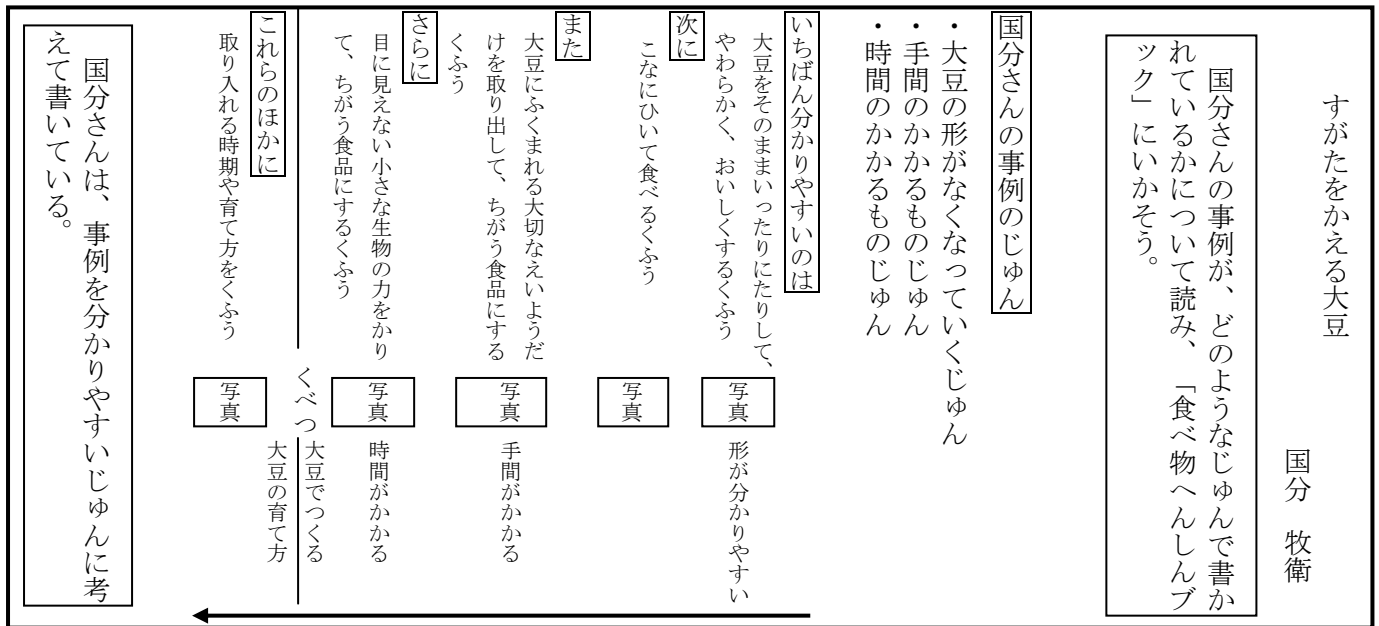
	主な学習内容と学習活動	指導上の留意点と評価
導入	<p>1. 前時を繰り返す。</p> <p>・昨日学習した「分かりやすい説明に必要なこと」はなんでしたか。</p> <p>2. 説明の例を読み、順序について考える。</p> <p>・昨日、学習した事例を「食べ物変身ブック」を作るために先生はこんなふうに考えてきました。</p> <p>先生 (そのまま 納豆 枝豆・もやし きなこ 豆腐 みそ・しょうゆ) 国分さん (そのまま きなこ 豆腐 ・みそ・しょうゆ 枝豆・もやし)</p> <p>・先生は、形がだんだん変わっていく順に並べました。その方が見て分かりやすいからです。 ●では、どうして国分さんは、このような事例の順で並べたのでしょうか。</p> <p>3. 課題把握をする。</p> <p>・国文さんの事例の順番にはどのような意味があるのか考えていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>国分さんの事例が、どのような順で書かれているかについて読み、「食べ物変身ブック」にいかそう。</p> </div>	<p>・「食べ物変身ブック」を作るために国文さんの説明文を読み「分かりやすい説明の仕方」の学習をしていることを押さえる。</p> <p>・「分かりやすく説明する」ために「事例」は、一つの段落に「おいしく食べる工夫」と「すがたをかえた食品」を書くことを確かめる。</p> <p>・形が変わっていく順に並べた「事例」を提示する。</p> <p>・事例は短くまとめたものを提示する。</p> <p>・じっくり比較して読ませ、事例の順の違いに気づかせる。</p>
10分展開	<p>4. 国分さんの事例の順序を考える。</p> <p>○国分さんは、どのような順だったでしょう。 先生…大豆のすがたがかわっていくじゅん 国分さん… _____ じゅん</p> <p>5. 事例の順序のわけを考える。</p> <p>○順序を考えた訳を書きましょう。【解釈】</p> <p>一人を考える。 グループで交流する。</p> <p>・自分の考えと友達のと比べながら交流しましょう。 ・交流が終わったら、「すがたをかえる大豆」を読み、国分さんが説明した順序について自分の考えを確かめましょう。</p> <p>○枝豆がはじめて説明されなかったのは、なぜでしょう。 【解釈】</p> <p>一人を考える。 全体で交流する。</p> <p>6. 本時の学習のまとめ</p> <p>・国分さんは事例をどのような順で説明していましたか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>国分さんは、事例を分かりやすい順に考えて書いています。</p> </div> <p>7. 学習した内容を確かめながら音読する。</p> <p>8. 次時の確認</p> <p>大豆以外の食べ物でも分かりやすい順番はあるのでしょうか。次の時間に考えましょう。</p>	<p>・考えた訳もノートに書くことを確かめる。</p> <p>・グループ交流の意味を確かめる。</p> <p>・考えに自信のない児童は、友達の考えからヒントをもらう。</p> <p>・訳まで言える児童は、自分と違う考えをみつける。(全く違う場合もあるし、訳だけ違う場合がある)</p> <p>・交流が終わったら、考えを確かめさせる。(確認・整理・加除・修正)</p> <p>・接続語に着目させる。</p> <p>・発表した児童の考えがどのような考えなのかを他の児童にも言わせ、考えを整理する。</p>
35分		

	<p>9. 前時をふりかえる。 ・前の時間に、「すがたをかえる大豆」の「事例」を読んで、国分さんの事例の順番には意味があるということ学習しましたね。</p> <p>10. 課題把握をする。 ・先生が「すがたをかえるたまご」という文章を書いてみました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">先生の事例が、どのようなじゅんで書かれているかについて読み、「食べ物変身ブック」にいかそう。</div> <p>11. 「すがたをかえるたまご」の「事例」がどのような順番で並んでいるか考える。 ○「事例」が書かれてある段落は、どこでしょう。また、事例は、いくつありますか。 ○先生の「事例」は、どんな順番で並べたか考えてみましょう。【解釈】 一人で考える。 グループで交流する。</p> <p>13. 全体で並び方の意図を話し合う。 ○どんな考えで先生が事例を並べたのか、みんなで交流しましょう。【解釈】</p> <p>14. 全体での交流をもとに、説明文の工夫についてまとめる。 ・「事例」は、じゅんを考えて書く。 ・一つ目の事例に、ならべた理由が分かるようなせつぞく語を書く。</p> <p>15. 全体での交流をもとに、自分が選んだ食品の事例の順番を考える。【表現】 ○自分の説明したい事例をふりかえり、事例の順番を考えながら、並行読書の本を読みましょう。</p>	<p>・前時に「すがたをかえる大豆」の「事例」の順番について学習したことを振り返り、本時の学習につなげる。</p> <p>・指導者が作った初見の説明文を見せ、前時と同様に「事例」の並び方について考える事を確認する。</p> <p>・「すがたをかえるたまご」の教材文を配付し、教師の範読を聞く。 ・教材文を音読しながら、「事例」がどのような順番で並んでいるのか、ノートにまとめる。その際考えた訳も書く事確かめる。 ・接続語「そのほかに」に書かれてある事例が他の事例と区別されていることにも触れさせる。 ・グループ交流の意味を確かめる。 考えに自信のない児童は、友達を考えからヒントをもらう。 訳まで言える児童は、自分と違う考えをみつける。(全く違う場合もあるし、訳だけ違う場合がある) 交流が終わったら、考えを確かめさせる。(確認・整理・加除・修正) ・発表した児童の考えがどのような考えなのかを他の児童にも言わせ、考えを整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">〈評価〉 読み手が分かりやすいように調理の工夫の程度など、伝えたい意図によって事例の順序が決まってくることを書きまとめている。</div> <p>・「事例」の並び方には、筆者の意図や、読み手が分かりやすいようにという筆者の工夫が隠されていることを確認する。 ・自分が選んだ食品の事例の順番を、意図をもって並び替えられるように全体で確認しながらまとめる。 ・全体での交流をもとに、自分が書きたい食品の事例の並び方をどのような順にするか、並び方に意図をもって再考する。</p>
40分 終末 5分	<p>16. 学習のまとめをする。 ・読む人に分かりやすい説明文にするために、どんな工夫があればよいか分かりましたか。</p> <p>17. 次時への見通しをもつ。</p>	<p>・説明文には、読み手に分かりやすくするための工夫があることを、児童の言葉で確認できるようにする。</p> <p>・次時の意欲につなげる。</p>

(3) 評価規準

	A 十分満足	B おおむね満足	Bに至るようにするための手立て
読むこと	読み手が分かりやすいように調理の工夫の程度や調理の手間の少ない順番など、伝えたい意図によって事例の順序が決まってくることを2種類以上書きまとめている。	読み手が分かりやすいように調理の工夫の程度など、伝えたい意図によって事例の順序が決まってくることを書きまとめている。	グループでの交流を取り入れ、話し合いながら考えられるようにする。

(4) 板書計画



10 指導案改善にあたって

本単元の学習を行い、児童の実態から次のように改善を行った。

ア、単元構成に関わって

- ・マップの書き方を理解し、自分の選んだ材料をマップに整理するのに時間がかかった。そこで、書く時間と「すがたをかえる大豆」の書かれている内容を確認する感想を書く時間を一時間ずつ設定した。
- ・「すがたをかえる大豆」の内容を確認する場合、マップでも確かめた「すがたをかえた食品」とすがたをかえるまでの「手間のかけかた」などたしかめる。
- ・並行読書をする場合、第二次で様々な本を読み、第三次で表現するために使う本を選ぶことが多かった。そのため、第三次に入るときにスムーズに進めないことが多かった。しかし、今回の単元構成のように、第一次で表現するための本を選び、第三次で表現するために第二次で学習した視点で並行読書させることにより、無理なく第三次で表現することができた。

イ、本時に関わって

- ・作者の意図を考えさせる【解釈】の発問であったが、なぜそう考えたのか、本文にかえり確かめる時間が十分ではなかった。なので、どのような順かを考え、考えの訳を書かせる活動を一人学びに取り入れた。
- ・全体の場合での発表も【解釈】したことを広めるために、友達の発表した考えがどのようなことなのか、他の児童に話させる活動を取り入れながら、十分に考えさせるようにした。
- ・板書は、児童の思考の足跡が残るように整理した。